

**Iwatani**

# 第81期 中間報告書

2023年4月1日～2023年9月30日

岩谷産業株式会社





代表取締役会長 兼 CEO

牧野明次

代表取締役 社長執行役員

間島寛

「世の中に必要とされる企業」で  
あり続けるために  
新たな価値の創出に努め、  
社会に貢献していきます

### 株主の皆さまへ

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り  
厚くお礼申し上げます。

さて、当社の第81期事業年度(2023年4月1日  
から2024年3月31日まで)は、2023年9月30日  
をもって上半期を終了いたしました。ここに営業  
の概況、ならびに決算内容についてご報告申し  
あげます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わ  
らぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し  
あげます。

2023年12月

当社は、四半期連結財務諸表規則に基づき四半期  
連結財務諸表を作成しておりますが、本報告書中、  
第2四半期連結累計期間に係る表現等については中間  
と読み替えて記載しております。

## 業績の概況

### 当中間期について

### 「社会課題解決」と「持続的成長」

当中間連結累計期間における日本経済は、世界的な金融引き締めや中国経済の先行き懸念などによる海外景気の下振れリスクがあるものの、コロナ禍からの社会経済活動の正常化により、個人消費が持ち直し、企業収益や設備投資が改善するなど、緩やかに回復しました。このような状況のもと、当社グループは2024年3月期を初年度とする5カ年にわたる中期経営計画「PLAN27」を発表し、基本方針である「社会課題解決」と「持続的成長」に向けた事業拡大に取り組みました。

水素エネルギー社会の実現に向けては、モビリティ分野の用途拡大を見据え、大阪・関西万博において国内初となる水素燃料電池船の旅客運航を行うことを決定しました。また、東名高速道路の足柄サービスエリア(SA)(下り)に、高速道路のSA・パーキングエリアでは国内初となる水素ステーションを開業し、需要拡大に向けた取り組みを進めました。さらに、トヨタ・カネツ株式会社と共同で大型液化水素貯槽の研究開発を行うこととなり、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成金に採択されました。総合エネルギー事業では、LPガスのさらなる安定供給に向けて、災害に強い基幹センターの整備を図るとともに、政府の補助金も活用しながら、遠隔でのガス栓の開閉や検針が可能な通信機器、自動充填設備などの導入を進め、配送合理化への取り組みを進めました。産業ガス・機械事業では、国内での半導体製造体制を強化する政府方針のもと、ヘリウムガスの備蓄設備に対して経済産業省からの助成金交付が決定し、日本市場でのさらなる安定供給体制の強化を進めます。

なお、LPガスと産業ガスの安定供給に欠かせない配送車に関して、東京都と福島県の拠点において、業界初となる燃料電池トラックによるシリンダー配送を開始し、サプライチェーンの脱炭素化に向けた取り組みを進めました。

マテリアル事業では、価格が高騰している銅の使用量やコストの削減を目的に、銅鉄合金溶加材を用いた銅とステンレスの溶接技術を独自に開発しました。空調業界の冷媒配管などで使用される銅の一部を価格安定性の高いステンレスに変更することが可能となり、今後、溶加材メーカーと共同で量産体制を構築し、市場への供給を目指してまいります。

当中間連結累計期間の業績については、売上高3,942億11百万円(前年同期比190億6百万円の減収)、営業利益145億91百万円(同2億69百万円の増益)、経常利益181億87百万円(同1億20百万円の減益)、親会社株主に帰属する四半期純利益120億62百万円(同5億43百万円の減益)となりました。

なお、今年度より、会社組織の変更に伴い、事業セグメントの区分方法の変更を行っており、当中間連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

### Index

株主の皆さまへ	1	株式に関する事項	8
業績の概況	2	会社情報	9
中間業績ハイライト	3	中期経営計画「PLAN27」	10
セグメント別の概況	4	Topics	11
中間連結財務諸表	7		

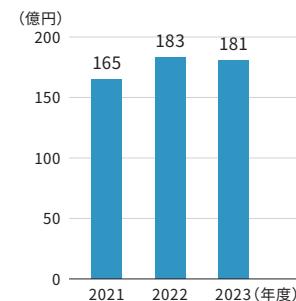
## 中間業績ハイライト

### ■ 損益の推移

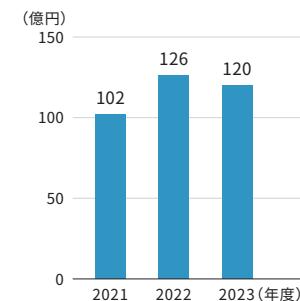
売上高  
**3,942億11百万円**



経常利益  
**181億87百万円**



親会社株主に帰属する中間純利益  
**120億62百万円**



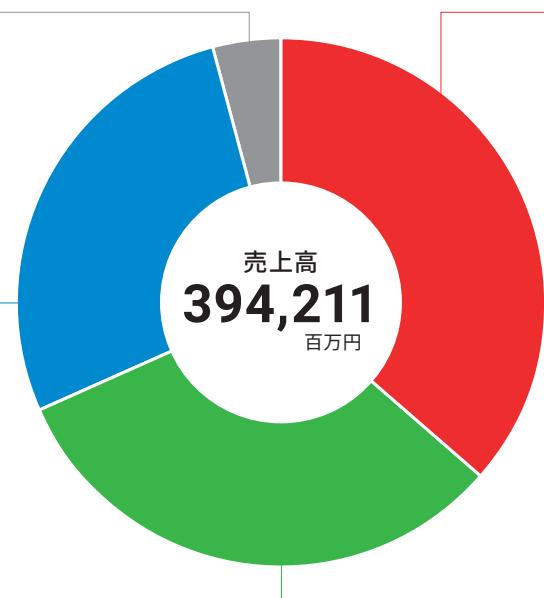
総資産／純資産  
**6,701億円／3,299億円**



### ■ セグメントの状況

その他  
**3.9%**  
[主な商品]  
食品／種豚／畜産設備・機材  
金融／保険／運送／保安／情報処理 他

マテリアル事業  
**27.5%**  
[主な商品]  
PET樹脂／汎用樹脂／バイオマス燃料  
二次電池材料／ディスプレイフィルム  
半導体材料／ミネラルサンド  
レアアース／セラミックス原料  
ステンレス／アルミ  
農業設備／農業資材 他



総合エネルギー事業  
**36.4%**  
[主な商品]  
家庭用・業務用・工業用LPガス  
LPガス供給機器・設備／液化天然ガス  
石油製品／家庭用厨房機器／住設機器  
エネファーム／GHP／日用品  
カセットこんろ・カセットボンベ  
ミネラルウォーター／健康食品／電気 他

産業ガス・機械事業  
**32.2%**  
[主な商品]  
エアセパレートガス／水素／ヘリウム  
その他特殊ガス／ガス供給設備／溶接材料  
溶接・溶断機器／産業用ロボット  
ポンプ・圧縮機／水素ステーション設備  
防災設備／高压ガス容器  
半導体製造装置／電子部品製造装置  
工作・板金機械／製薬・食品機械  
環境関連装置 他

## セグメント別の概況

### 総合エネルギー事業

総合エネルギー事業は、LPガス輸入価格が低位に推移したことや、気温高の影響などにより減収となりました。利益面においては、LPガス小売部門の収益性が改善したことに加え、ガス保安機器などが堅調に推移したものの、LPガスの市況要因(前年同期比56億74百万円のマイナス)により減益となりました。

この結果、当事業分野の売上高は1,433億29百万円(同253億6百万円の減収)、11億99百万円の営業損失(前年同期は営業利益39億10百万円)となりました。



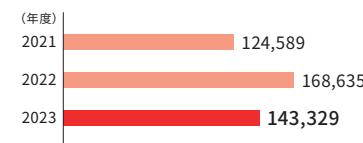
ガス生産国からLPガスを受け入れる堺LPG輸入ターミナル



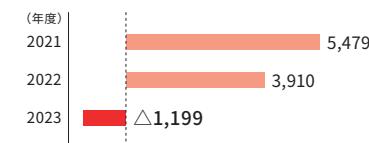
全国のご家庭にお届けするLPガス配送ネットワーク



■ 売上高の推移(百万円)



■ 営業損益の推移(百万円)



当期より、事業セグメントの区分変更を行っています。このため、第80期(2022年度)中間の各数値は、当期の区分に対応して組み替えて表示しております。

## 産業ガス・機械事業

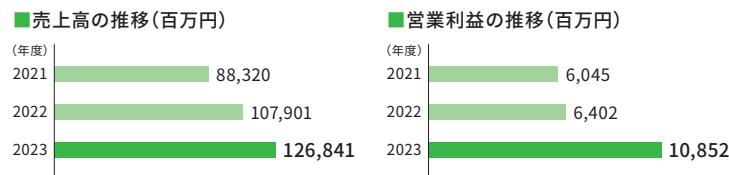
産業ガス・機械事業は、エアセパレートガスおよび水素ガスについては、半導体、電子部品業界向けを中心に販売数量が減少しましたが、製造コスト増加への対応に努めたことにより収益性は改善しました。特殊ガスについては、飲料、化学業界向けに炭酸ガスが堅調に推移したことに加え、世界的な需給ひっ迫の中、ヘリウムの安定供給に努めました。機械設備は、パワー半導体向け設備やガス供給設備の販売が増加しました。この結果、当事業分野の売上高は1,268億41百万円(前年同期比189億39百万円の増収)、営業利益は108億52百万円(同44億50百万円の増益)となりました。



世界的に需給がひっ迫する中で安定供給に努めたヘリウム



収益の改善に努めた工業ガス



## マテリアル事業

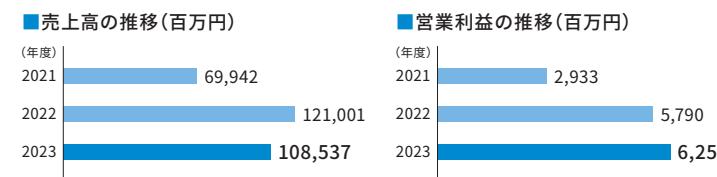
マテリアル事業は、次世代自動車向け二次電池材料について、販売先での在庫調整の影響などにより販売数量が減少し、減収となりました。一方で、バイオマス燃料や飲料ボトル向けPET樹脂の販売増加に加え、海外でのミネラルサンド事業が伸長しました。また、ステンレスやエアコン向けを中心とする金属加工品も堅調に推移しました。この結果、当事業分野の売上高は1,085億37百万円(前年同期比124億64百万円の減収)、営業利益は62億59百万円(同4億68百万円の増益)となりました。



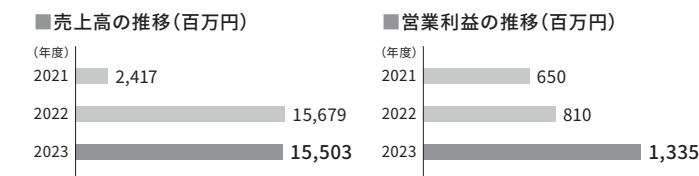
海外で伸長したミネラルサンド事業



金属加工品を製造するバンコクアイ・トーア会社



## その他



## 中間連結財務諸表

### 中間連結貸借対照表

(2023年9月30日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
項目	金額	項目	金額
<b>流動資産</b>	<b>288,362</b>	<b>流動負債</b>	<b>205,671</b>
現金及び預金	27,233	支払手形及び買掛金	61,505
受取手形、売掛金及び契約資産	131,532	電子記録債務	34,197
電子記録債権	25,723	短期借入金	46,101
商品及び製品	58,254	未払法人税等	4,766
仕掛品	7,423	契約負債	8,249
原材料及び貯蔵品	9,348	賞与引当金	6,781
その他	29,031	その他	44,069
貸倒引当金	△183		
<b>固定資産</b>	<b>381,780</b>	<b>固定負債</b>	<b>134,472</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>213,921</b>	社債	30,000
土地	74,296	長期借入金	68,372
その他(純額)	139,624	役員退職慰労引当金	1,299
		退職給付に係る負債	5,890
		その他	28,908
<b>無形固定資産</b>	<b>37,397</b>	<b>負債合計</b>	<b>340,143</b>
のれん	23,227		
その他	14,169		
<b>投資その他の資産</b>	<b>130,461</b>	<b>純資産の部</b>	
投資有価証券	95,705	<b>株主資本</b>	<b>275,910</b>
その他	35,276	資本金	35,096
貸倒引当金	△520	資本剰余金	31,950
		利益剰余金	210,394
		自己株式	△1,530
		<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>43,432</b>
		其他有価証券評価差額金	30,493
		繰延ヘッジ損益	4,142
		為替換算調整勘定	8,762
		退職給付に係る調整累計額	34
		<b>非支配株主持分</b>	<b>10,656</b>
		<b>純資産合計</b>	<b>329,999</b>
<b>資産合計</b>	<b>670,143</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>670,143</b>

### 中間連結損益計算書

(2023年4月1日～2023年9月30日)

(単位:百万円)

項目	金額
<b>売上高</b>	<b>394,211</b>
売上原価	293,256
<b>売上総利益</b>	<b>100,955</b>
販売費及び一般管理費	86,363
<b>営業利益</b>	<b>14,591</b>
営業外収益	4,860
営業外費用	1,264
<b>経常利益</b>	<b>18,187</b>
特別利益	1,652
特別損失	603
<b>税金等調整前中間純利益</b>	<b>19,236</b>
法人税等	6,668
<b>中間純利益</b>	<b>12,568</b>
非支配株主に帰属する中間純利益	505
<b>親会社株主に帰属する中間純利益</b>	<b>12,062</b>

### 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(2023年4月1日～2023年9月30日)

(単位:百万円)

項目	金額
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>9,809</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△29,822</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>12,593</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	970
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>△6,449</b>
現金及び現金同等物の期首残高	33,256
<b>連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>87</b>
<b>非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額</b>	<b>1</b>
<b>現金及び現金同等物の中間期末残高</b>	<b>26,895</b>

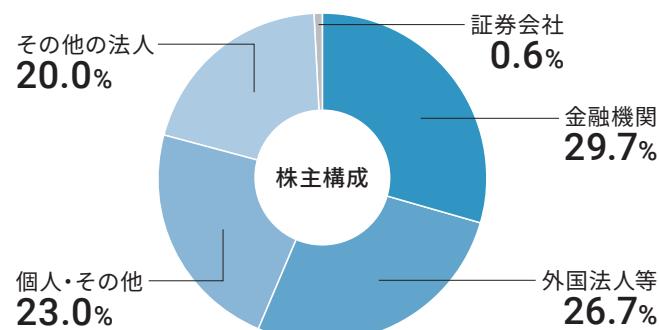
## 株式に関する事項 (2023年9月30日現在)

### 株式の状況

発行可能株式総数	120,000,000株
発行済株式総数	58,561,649株
株主数	35,000名
(2023年3月末株主数との比較)	(1,608名減)

(注)発行済株式総数は、自己株式(976,053株)を控除しております。

### 株主構成(株式保有割合)



(注)持株比率は、自己株式(976,053株)を控除して計算しております。

### 株式に関するご案内

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

期末配当金の基準日 3月31日

公告の方法 当社のホームページに掲載いたします。  
<https://www.iwatani.co.jp/>

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
電話 0120-094-777 (フリーダイヤル)  
インターネットホームページ  
<https://www.tr.mufj.jp/daikou/>

上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場

### 大株主

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	6,836千株	11.87%
公益財団法人岩谷直治記念財団	4,132	7.18%
GOVERNMENT OF NORWAY	3,043	5.29%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,482	4.31%
株式会社三菱UFJ銀行	1,336	2.32%
株式会社りそな銀行	1,177	2.05%
株式会社テツ・イワタニ	1,000	1.74%
日本生命保険相互会社	898	1.56%
岩谷産業泉友会	879	1.53%
イワタニ炎友会	782	1.36%

(注)1.持株比率は、自己株式(976,053株)を控除して計算しております。  
2.岩谷産業泉友会は、当社従業員による持株会であります。  
3.イワタニ炎友会は、当社と取引関係にある企業等の持株会であります。

#### [ご注意]

- 株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。  
株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

#### [単元未満株式の買取請求・買増請求につきまして]

当社では、証券市場でお取引できない単元未満株式(100株に満たない株式)の買取制度(ご売却)及び買増制度(ご購入)を採用しております。ご希望の株主様は、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)へお申し出ください。また、特別口座に当社株式をご所有の株主様は、当社特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお申し出ください。

## 会社情報

### 会社の概要

商号	岩谷産業株式会社
英文名	Iwatani Corporation
本社	〒541-0053 大阪市中央区本町3丁目6番4号 TEL.(06)7637-3131
東京本社	〒105-8458 東京都港区西新橋3丁目21番8号 TEL.(03)5405-5711
設立	1945年2月2日
創業	1930年5月5日
資本金	350億96百万円(2023年10月31日現在)
従業員数	1,356名(2023年9月30日現在)
URL ホームページアドレス	https://www.iwatani.co.jp/

### ネットワーク(2023年10月31日現在)

#### 国内48カ所

本社	大阪、東京
国内支社・支店など	北海道、東北、関東、首都圏、中部、近畿、中国、九州など42カ所
研究所など	中央研究所、岩谷水素技術研究所、滋賀研修所、琵琶湖コンファレンスセンター

#### 海外73カ所

駐在員事務所	北京、中東、ドーハ、欧州
商社現地法人等	上海岩谷有限公司、広州岩谷貿易有限公司、香港岩谷有限公司、泰国岩谷会社、米国岩谷会社、シンガポール岩谷会社、岩谷オーストラリア会社など69拠点

### 役員(2023年11月1日現在)

#### 取締役および監査役

代表取締役会長兼CEO	牧野 明次	取締役*	村井 真二
代表取締役副会長	渡邊 敏夫	取締役*	森 詳介
代表取締役社長執行役員	間島 寛	取締役*	佐藤 廣士
取締役 副社長執行役員	堀口 誠	取締役*	鈴木 博之
取締役 専務執行役員	大川 格	取締役*	齋藤 友紀
取締役 専務執行役員	津吉 学	監査役	尾濱 豊文
取締役 専務執行役員	福島 洋	監査役	岩谷 直樹
取締役 専務執行役員	廣田 博清	監査役**	篠原 祥哲
		監査役**	横井 康

※印の取締役は社外取締役であります。  
 ※※印の監査役は社外監査役であります。

#### 執行役員

専務執行役員	亀倉 隆志	執行役員	竹花 知彦
専務執行役員	上田 恭久	執行役員	齊藤 敦久
専務執行役員	松尾 哲夫	執行役員	中田 健志
専務執行役員	酒井 泰	執行役員	内田 博文
専務執行役員	本折 憲司	執行役員	小池 国彦
専務執行役員	高山 健志	執行役員	和田 直樹
常務執行役員	矢野 浩之	執行役員	横谷 和貴
常務執行役員	西村 昌人	執行役員	山田 佳邦
常務執行役員	清水 尚之	執行役員	中畑 勝己
常務執行役員	一色 涉	執行役員	駒嶺 優茂礼
常務執行役員	宮垣 尚民	執行役員	室留 宏行
常務執行役員	平島 正郎	執行役員	岡本 峰春
常務執行役員	松原 潤	執行役員	島崎 幸三
		執行役員	渡邊 希美男
		執行役員	橋本 信一

## 中期経営計画「PLAN27」(2023~2027)

当社は、2027年度までの5年間にわたる中期経営計画「PLAN27」を発表しました。

2030年の姿を『「住みよい地球」の実現に貢献し続ける企業グループ』と定め、長期ビジョンとして①CO<sub>2</sub>フリー水素サプライチェーン構築、②循環型社会の推進、③地域社会を支えるインフラ・サービスの提供、④持続的成長を推進する経営基盤の強化を掲げ、「PLAN27」はその実現を確かなものにする重要な期間と位置づけています。

### テーマ 水素エネルギー社会の実現に向けて

### 基本方針 「社会課題解決」と「持続的成長」に向けた事業拡大

#### 経営数値目標



#### 資本政策



※1:市況要因を除く当期純利益ベース(2027年度目標)

### 重点施策

#### 水素戦略

- 脱炭素関連の需要拡大を捉えた、液化水素ビジネスの拡大
- CO<sub>2</sub>フリー水素サプライチェーンの構築

#### 脱炭素戦略

- 低・脱炭素ソリューション事業の推進による事業拡大
- 脱炭素社会の実現に向けた投資

#### 国内エネルギー・サービス戦略

- LPガスの事業インフラを活用したシェア拡大、流通合理化
- 地域社会課題解決に貢献するサービスの提供

#### 海外戦略

- 各セグメントの強みを生かし、各地域の事業を拡大

#### 非財務戦略

- 気候変動への対応
- 人材戦略
- 技術戦略

## 脱炭素の切り札として社会実装が進む水素 その魅力や実用性を社会に示す取り組みが次々に具体化

**2025大阪・関西万博で水素燃料電池船の旅客運航が決定**  
 当社は、2025年に開催される大阪・関西万博において、国内初となる水素燃料電池船の旅客運航を行うこととなりました。予定される航路は、川船と海船が行き来し水都大阪構想の重要な拠点となる中之島GATEから大阪有数の観光スポットの近傍に位置するユニバーサルシティポートを経由し、大阪・関西万博会場となる夢洲をつなぐルートです。  
 今回の水素燃料電池船は、2021年に国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業として採択されており、従来の内燃機関船と違い、走行時にCO<sub>2</sub>や環境負荷物質を排出しない高い環境性能を有するだけでなく、におい、騒音、振動のない優れた快適性を実現するものです。  
 本船のデザインは、カーデザイナーとして世界的に有名な山本卓身氏が手掛けており、水素の先進性を訴求すべく、未来を感じられる斬新なデザインとなりました。当社はこの燃料電池船を海上の「動くパビリオン」と位置付けており、大阪・関西万博会場までの移動を特別な体験に変え、水素エネルギーの魅力の世界に発信することを目指してまいります。



大阪・関西万博で商用運航を目指す水素燃料電池船イメージ

**東名高速道路 足柄SAに全国初の水素ステーションを設置**  
 当社と中日本高速道路株式会社、中日本エクス株式会社は、東名高速道路(下り)足柄サービスエリア(静岡県御殿場市)に、「イワタニ水素ステーション 足柄SA」をオープンしました。当社にとっては54カ所目の水素ステーションであるとともに、高速道路のサービスエリア・パーキングエリアにおける日本初の水素ステーションとなります。  
 また、本ステーションは、今後導入が進められる商用燃料電池トラック(FCトラック)向けの需要拡大を見据え、乗用車タイプの燃料電池車6~8台分に相当する大量の水素を搭載する大型FCトラックにも短時間で水素充填を行える仕様としています。  
 今回の設置を足掛かりとして、今後もFCVやFCトラックの普及促進を図るため、高速道路のサービスエリア・パーキングエリアや物流拠点など、お客さまにとって利便性の高い場所への水素ステーションの整備を進め、究極のクリーンエネルギーである水素エネルギー社会の早期実現を目指してまいります。



高速道路初の設置となった「イワタニ水素ステーション 足柄SA」

## 東京都交通局が運行する燃料電池バス3台に 水素事業をPRするラッピング広告を実施

東京都は、脱炭素社会の実現に向けて水素エネルギーの普及に取り組んでおり、交通局では、東京都バスとして70台以上の燃料電池バスを運行しています。当社はその内の3台の車体に、8月よりラッピング広告を開始しました。対象となるバスは、深川、有明、江戸川の自動車営業所3カ所に所属するバスで、毎日当社の水素ステーション(イワタニ水素ステーション 東京有明、イワタニ水素ステーション 東京葛西)を利用しています。  
 走行ルートは日ごとに変わりますが、主に東京駅丸の内南口から有楽町、銀座を経て有明間を走行するルート、門前仲町駅から有明、お台場海浜公園駅、東京テレポート駅間を走行するルート、葛西駅から葛西臨海公園駅間を走行するルートなど、幅広い年代の人が行き交う地域を走行しています。  
 車体に施した広告は、3台とも当社の水素事業をPRするものとなっており、バスを待つ乗客のみならず、沿道の歩行者や他車両のドライバーなど多くの人々に「水素のイワタニ」をアピールしています。当社は今後も、水素エネルギーが私たちの生活に必要なものとして身近に感じていただけるよう、着実に取り組みを進めてまいります。



水素のラッピング広告を施した東京都の燃料電池バス

## カセットガス式屋外専用ヒーター、 屋内外兼用カセットガスストーブ新発売

当社は、屋外専用ヒーターの発売を求めらるお客さまからのご要望にお応えし、業界で初めて第三者認証\*を取得したカセットガス式屋外専用ヒーター「OUTDOOR HEATER」を開発し、7月よりFORE WINDSブランドで販売を開始しました。カセットガスが容器カバーに覆われていない直結型のため、コンパクトかつ軽量で多様なアウトドアシーンで活躍する商品です。安定した火力で最後までガスを使い切ることができるほか、上下方向に角度調節も可能です。  
 また、屋内、屋外いずれでも使用可能で、天板にやかんを置いてお湯を沸かせるカセットガスストーブを開発し、9月に発売しました。イワタニブランドでは「マル暖」、FORE WINDSブランドでは「MULTI HEATER」のダブルブランド、ダブルネームで販売しています。室内の暖房はもちろん、風のあるアウトドア(風速6m)でも活躍し、4つの安全装置により安心してご使用いただけます。  
 両商品とも、当社の公式オンラインショッピングサイト「イワタニアイコレクト」、全国のホームセンター、家電量販店、大型スーパー、専門店、当社コンセプトショップ「Iwatani Outdoor Shop BASE」などで発売しており、寒くなる季節に向けて好調な売れ行きです。  
 \*一般財団法人日本ガス機器検査協会による適合性検査



屋外専用「OUTDOOR HEATER」



屋内外兼用「マル暖(MULTI HEATER)」

### 嘉興岩谷気体会社 工業ガス総合利用プロジェクト開業式を開催

6月、中国・浙江省嘉興市で、「嘉興岩谷気体 工業ガス総合利用プロジェクト」の開業式が行われました。当プロジェクトは、嘉興や上海など中国華東地域で成長する水素ガスおよび空気分離ガスの需要に対応する目的で水素工場の新設と空気分離装置 (ASU) の増設を行ったものです。新たな ASU の完成により、液化窒素の生産能力は地域最大となり、半導体やファインケミカルなどの先端分野の発展に寄与するものと捉えています。また、水素も華東地域最大の出荷ゲートを保有しており、お客さまから好評を頂いています。

嘉興岩谷気体会社は中国地域最大のヘリウム供給拠点でもあり、当社がカタールから輸入したヘリウムを嘉興岩谷気体会社から中国全土に供給しています。中国のヘリウム需要は成長を続けており、当社は需要の伸びに対応するため、湖北省孝感市にもヘリウムの供給拠点を建設し、2023年10月に稼働を開始しました。供給力向上により、お客さまの需要にしっかりと応えてまいります。



水素工場の新設とASUの増設を行った嘉興岩谷気体会社

### 中央研究所・岩谷水素技術研究所で 「イワタニR&Dフォーラム」を開催

2013年に開所した中央研究所は、当社の研究開発拠点として、営業部門との連携を図りながら新技術、新商品の開発に取り組んでまいりました。また、2021年には岩谷水素技術研究所を新設し、水素・脱炭素技術の開発に注力しています。10年目を迎える研究所の研究開発活動をより一層加速し、新規開発テーマの創出につなげることを目的として、6月に第1回「イワタニR&Dフォーラム」を開催しました。

液化水素技術、超高压水素技術、グリーンLPG製造技術などの水素・脱炭素関連テーマに加え、再生医療研究、陸上養殖技術、金属ナノ粒子製造技術など、多岐にわたるテーマについて、来場された多くのお客さまに、当社の担当研究員からプレゼンテーションや実演を行い、丁寧な説明を通して理解を深めていただきました。

また、研究所内の液化水素貯槽から気化する水素 (ボイルオフガス) や実験で使用して廃棄する水素ガスを回収するための設備と5kWの純水素型燃料電池を導入し、発電した電力を研究所内で有効利用しています。



新技術開発などを行う中央研究所、岩谷水素技術研究所

### 銅鉄合金溶加材を活用した新技術を開発

当社は、独自に開発した「銅鉄合金溶加材」を用いることによりステンレス配管と銅配管を溶接する技術を開発しました。従来から、銅とステンレスの主成分である鉄との合金を形成することは難しく、アーク溶接技術の確立は困難と言われていました。しかし、当社独自に開発した「銅鉄合金溶加材」を使用し、既存のTIGアーク溶接法\*を用いた結果、室温のみならず低温環境下でも十分な引張強度を有する溶接技術を確立しました。

昨今の銅市場は、世界的な鉱物資源需要拡大に伴い、価格が高騰し、調達が困難になりつつあります。空調業界では冷媒配管で使用する銅の使用量を削減する傾向にあります。当社の開発した銅鉄合金溶加材を用いた接合技術を用いることで、銅配管の一部をステンレス配管に変更することができるため、高価な銅の使用量を削減することが可能となります。現在、溶加材メーカーと共同で量産体制の構築を進めており、2024年には市場に供給する計画です。

\*電極棒に消耗しない材料のタングステンを使用し、別の溶加材をアーク中で溶融して溶接する方法



銅鉄合金を用いた銅とステンレスの溶接

### 西豪州で植林による カーボンクレジット創出事業を開始

当社はこのたび、西豪州政府林業機関である Forest Products Commission (以下 FPC) との協業にて、西豪州南西部ナナップにおいて、植林によるカーボンクレジット創出事業を開始しました。当社のグループ会社である Iwatani Australia Pty. Ltd. (以下岩谷オーストラリア会社) は、2002年より、西豪州にてミネラルサンド (チタン、ジルコン) 鉱山の運営を行っています。2022年に、岩谷オーストラリア会社傘下にイワタニフォレスト会社を設立し、2023年7月、FPCによる植樹をスタート。当社初となるカーボンクレジット取得を目的とした事業に参画しました。豪州クリーンエネルギー機関へのカーボンクレジット (ACCUs) プログラム登録により、イワタニフォレスト会社は創出されるクレジットを全量取得することとなります。

当社は引き続き、低・脱炭素社会の実現に取り組んでいくとともに、西豪州政府と連携し、他の地域での可能性を追求してまいります。また、将来、国際間のクレジット取引が可能となった際には、本クレジットを活用し、日本でのグリーン商品の取り組みを目指してまいります。



カーボンクレジット創出に向けて西豪州で植林を開始 (イメージ)

# エネルギーを 水素に。

## ホームページのご案内

IR(投資家情報)ウェブサイトでは、決算短信、有価証券報告書、統合報告書などのIR関連資料、株主総会に関する情報など、株主・投資家の皆さまのための情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

イワタニ

検索

<https://www.iwatani.co.jp/>

IR(投資家情報)ウェブサイト

<https://www.iwatani.co.jp/jpn/ir>

<https://www.iwatani.co.jp/eng/ir> [英文サイト]

水素シェア No.1※

**Iwatani**

岩谷産業株式会社

※岩谷産業株式会社は、水素の販売において国内市場シェア約70%を占めています。  
(オンサイト・パイピングを除く。2023年5月現在、自社調べ)